

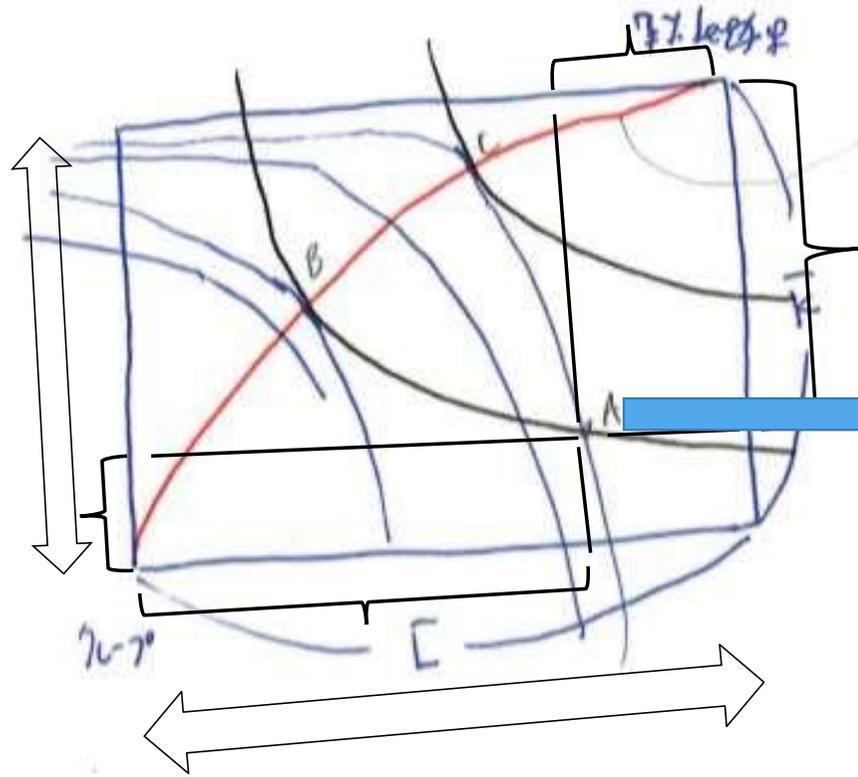
国際貿易論 2020 第5回 (6/11)

学生さんへ

- ・ ネット接続料金は大丈夫？
- ・ 夢の森公園はカキツバタ満開なう

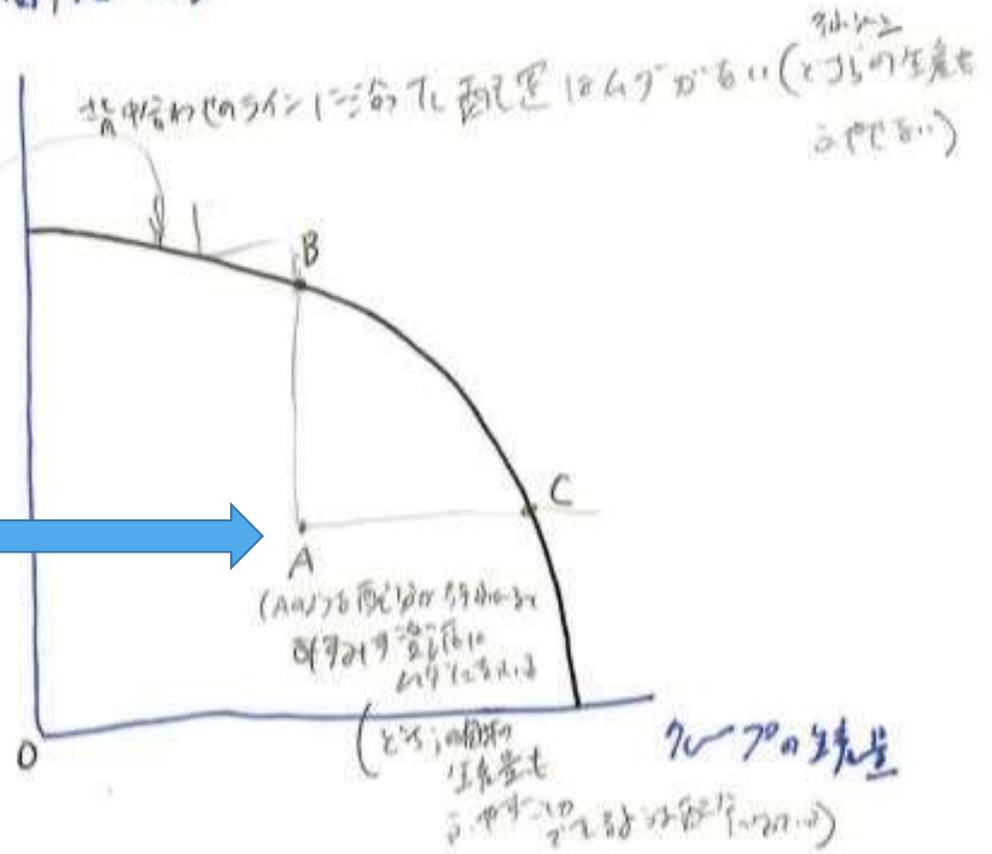


その国にある
資本サービスの量

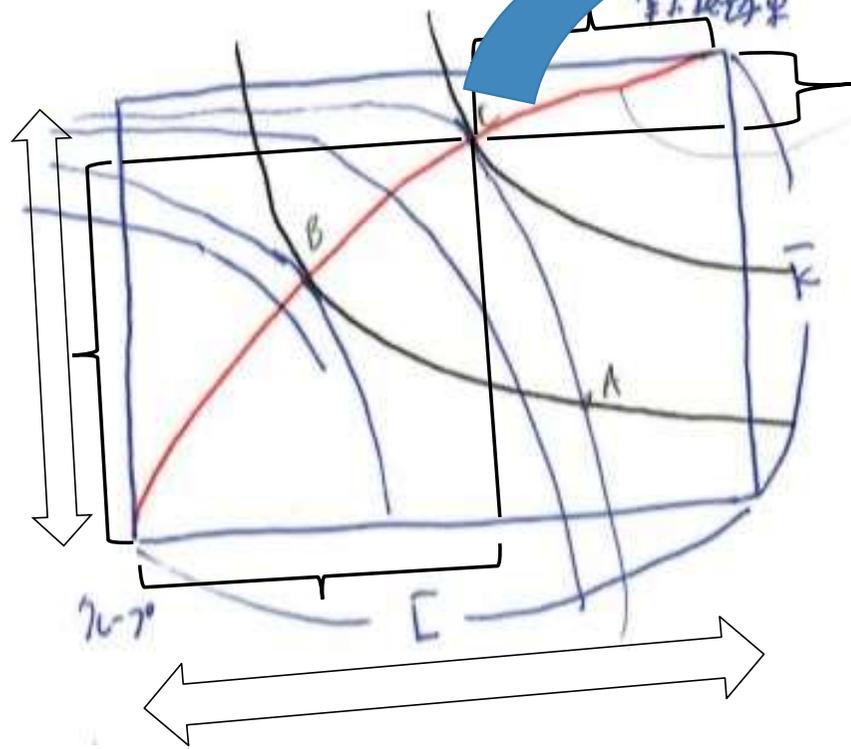


その国の労働サービス賦存量
(=その国にある労働サービスの量)

おかしな配置

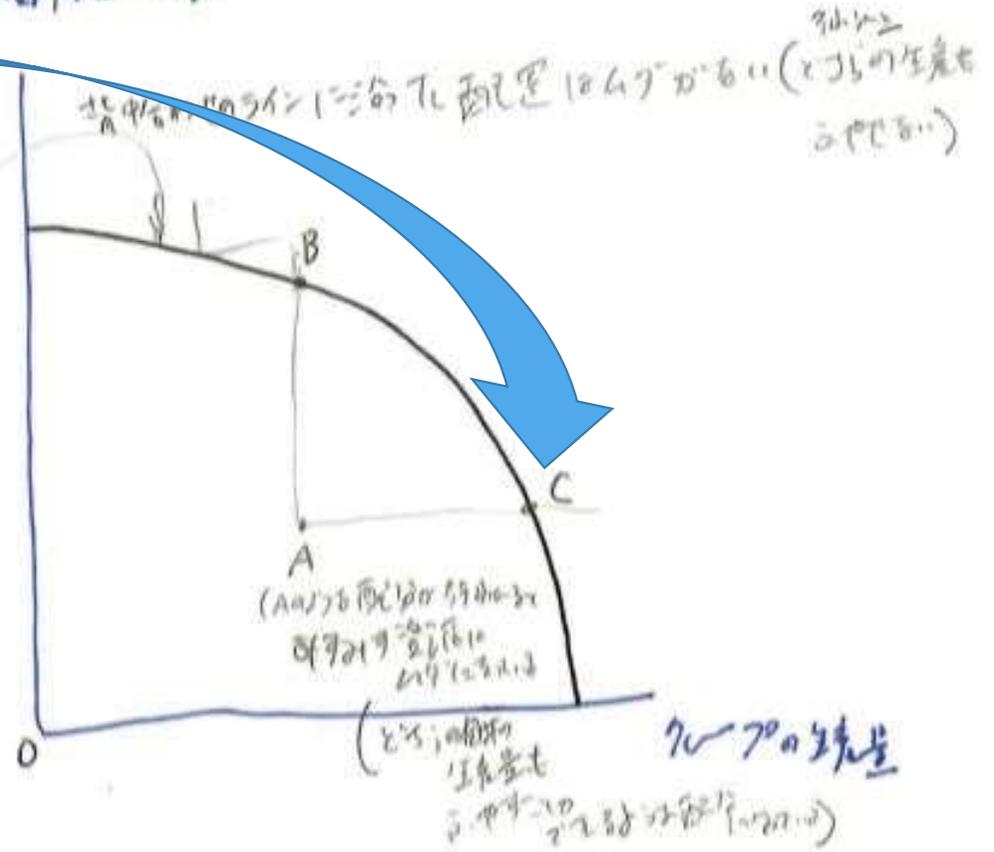


その国にある
資本サービスの量

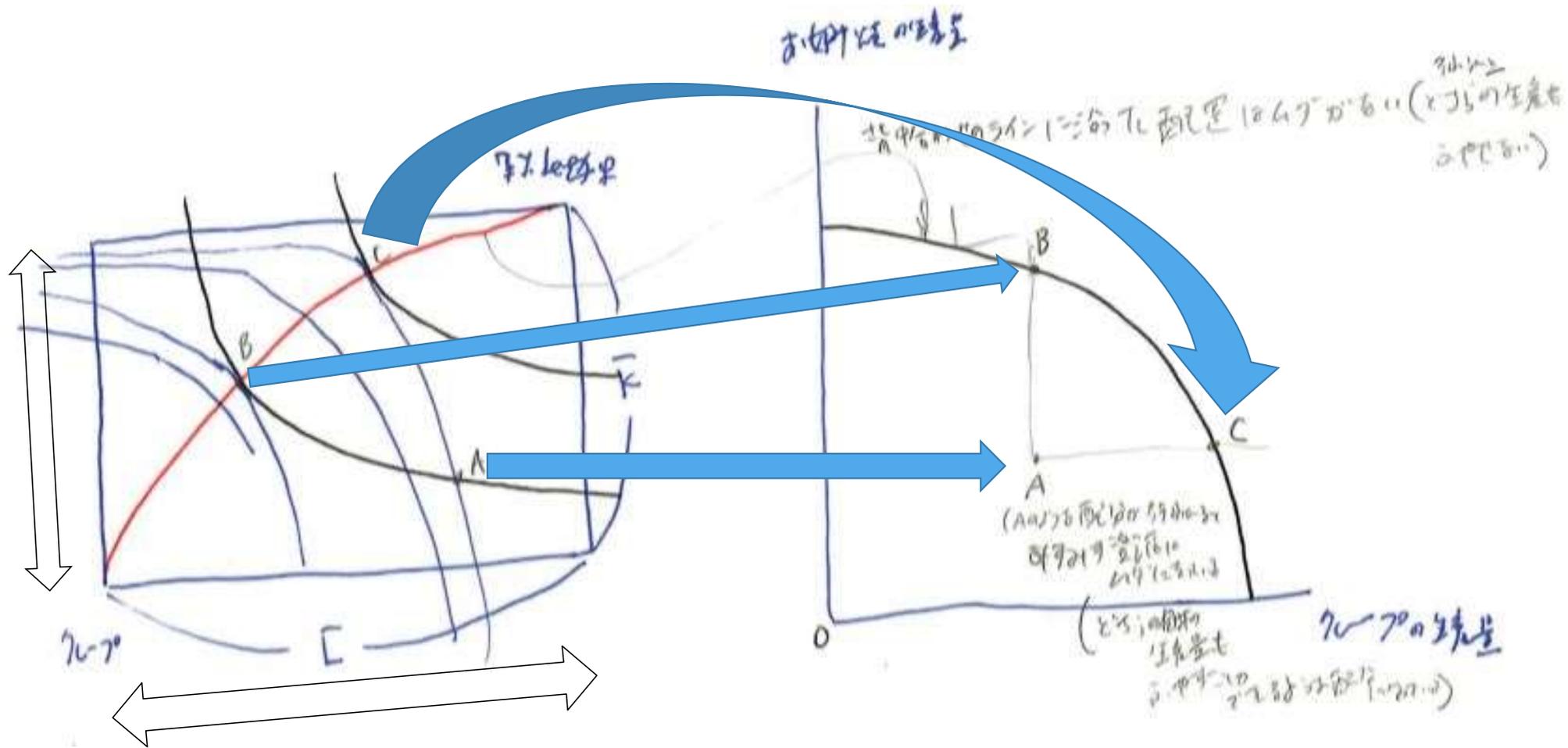


その国の労働サービス賦存量
(=その国にある労働サービスの量)

おかしな結果



その国にある
資本サービスの量



その国の労働サービス賦存量
(=その国にある労働サービスの量)

で、その国（というかある国、というか、今何となく頭に思い描いている、当該の妄想の中の国）では資源はどのように配分され、生産可能性曲線上のどこの点が生産されることになるか？

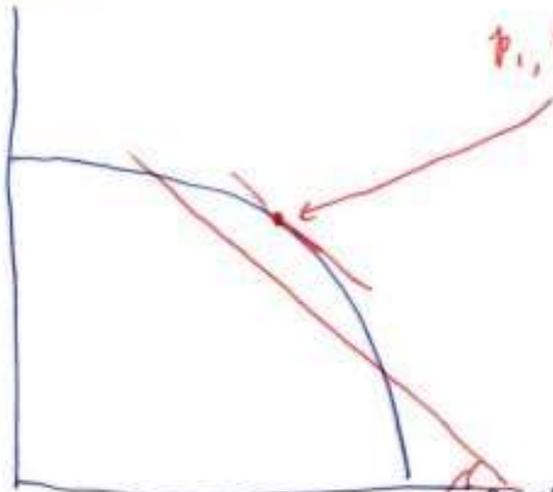
アダムスミスの原理

生産可能性曲線 とう

アダムスミスの原理

(競争的)市場経済(市場)の下では、生産可能性曲線上のどの点が生産される(生産)という問題は

市場



P_1, P_2 - 財の価格

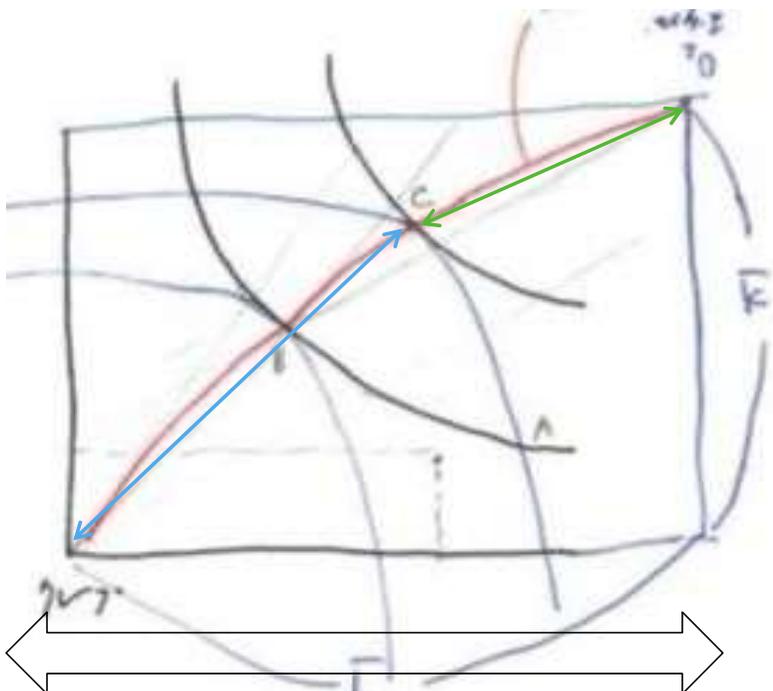
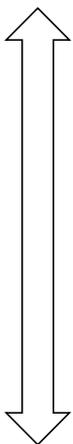
$GDP = (P_1 \cdot Q_1 + P_2 \cdot Q_2) / (P_1 \cdot Q_1 + P_2 \cdot Q_2)$

一番大きくなる点
 GDP
 GDP
 GDP
 GDP
 GDP

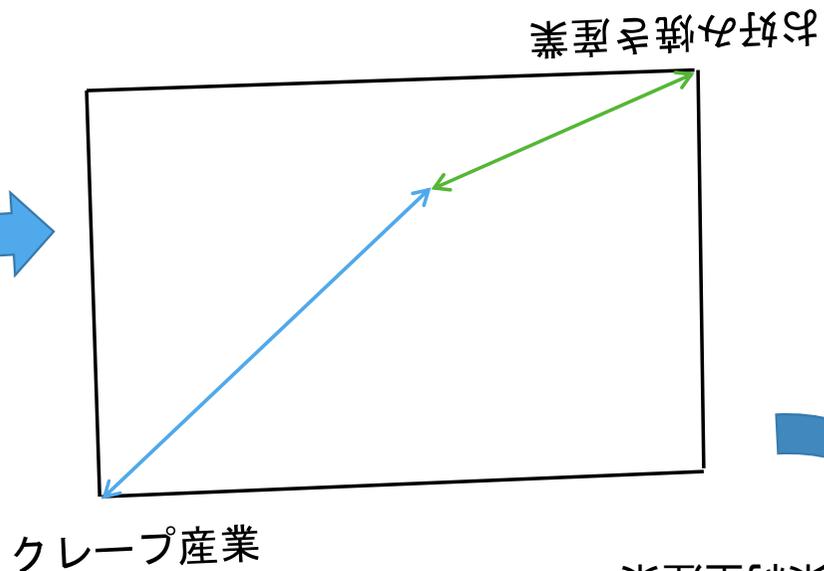
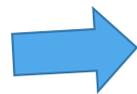
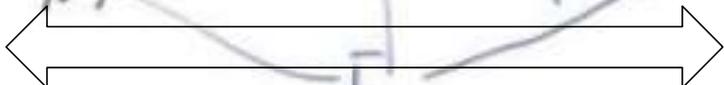
$\frac{P_1}{P_2}$ (P_1 財の価格 / P_2 財の価格)

P_1, p_2 (1財と2財の価格) が与えられたとしてその国では (競争的な市場社会である、その国では) GDP額が一番大きくなるような点が生産される (よう資源も配分されることになる)。

その国にある
資本サービスの量



その国の労働サービス賦存量
(=その国にある労働サービスの量)



クレープ産業

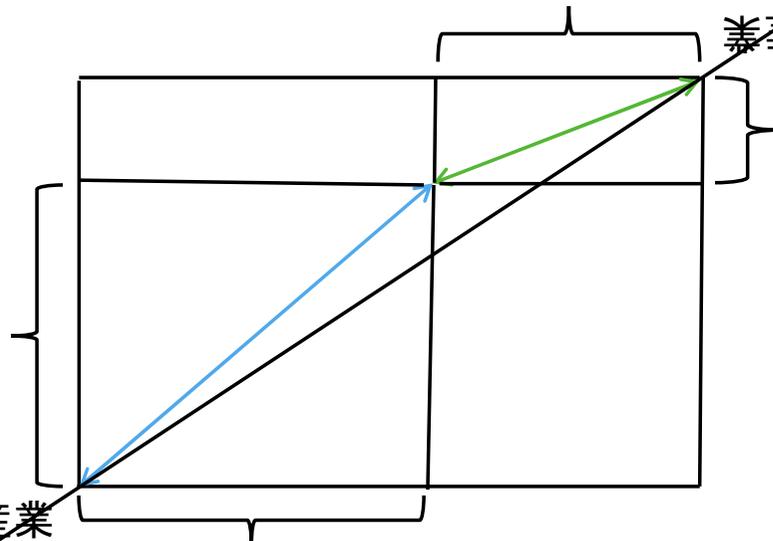
お好み焼き産業

労働集約型産業
お好み焼き産業

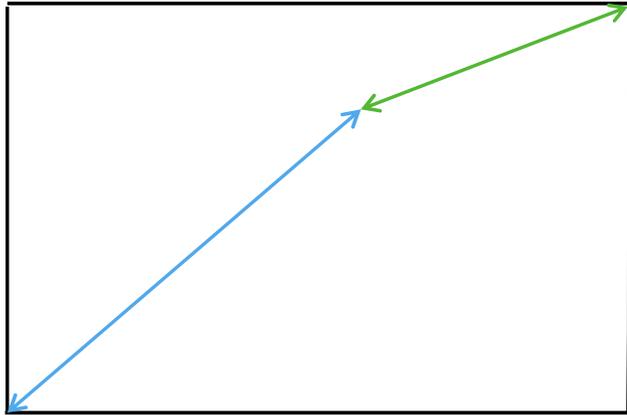


画像の向きを若干修正

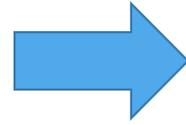
資本集約型産業 ← クレープ産業



お好み焼き産業

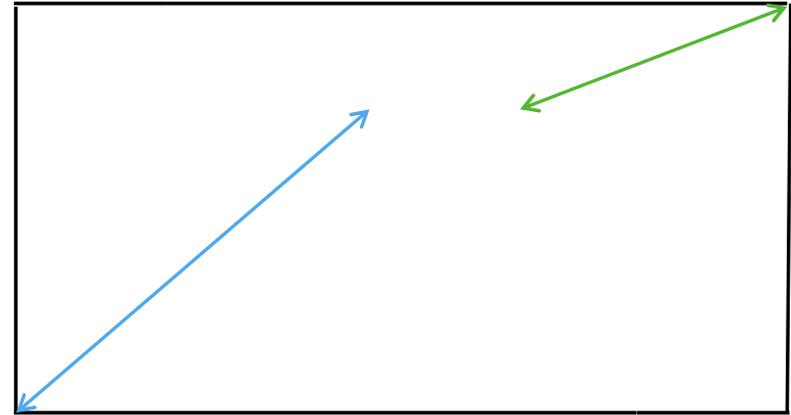


クレープ産業

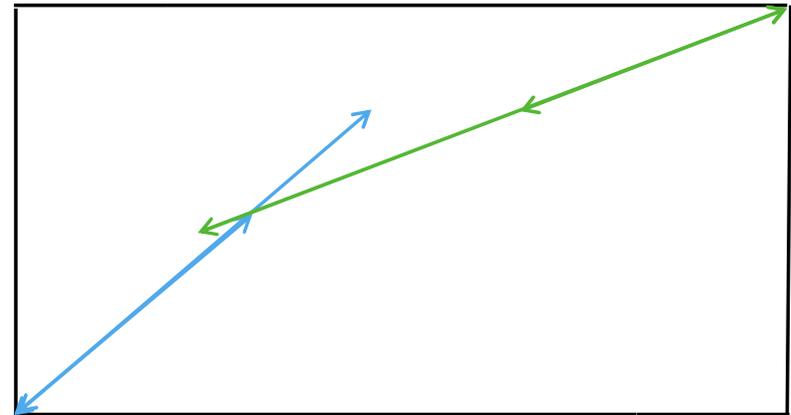


外国人労働者が
入ってきた。

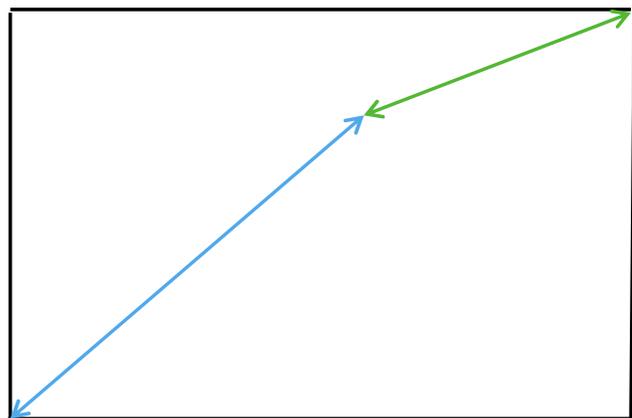
お好み焼き産業



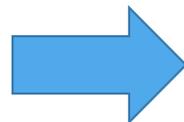
クレープ産業



お好み焼き産業

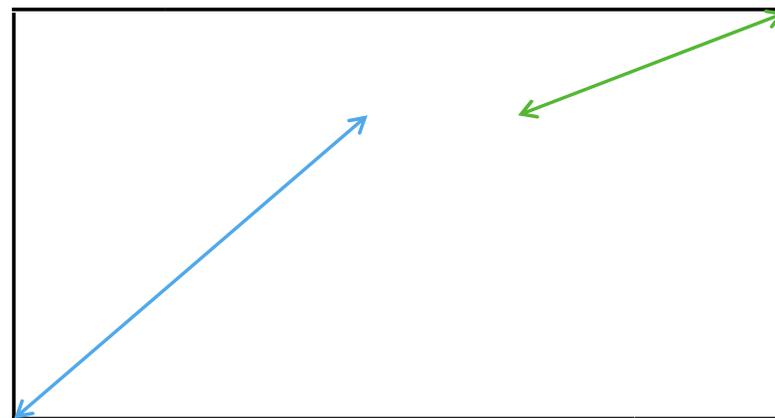


クレープ産業



外国人労働者が
入ってきた。

お好み焼き産業

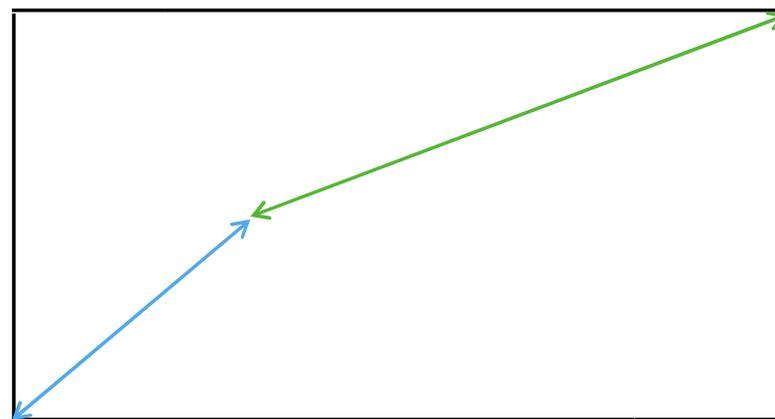


クレープ産業

労働集約的な産業（お好み焼き産業）は
生産が増える（追い風を受ける形で躍進
する＝生産量が増える）。

労働集約的でない産業（資本集約的
な産業、つまりクレープ産業）は
生産が減る（ダメージを受ける）。

お好み焼き産業



クレープ産業